

令和3年度秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 令和3年7月6日(火) 午後2時00分～午後3時30分

2 場所 秋田市役所5階 正庁

3 出席者

(1) 委員(12人)

奥山順子会長、水澤聡副会長、泉谷和人委員、小林崇之委員、澤口勇人委員、塩谷正文委員、田口明世委員、中川聖子委員、水木卓委員、宮野はるみ委員、山崎純委員、渡辺丈夫委員

(2) 事務局

佐藤子ども総務課長、吉田子ども育成課長、新田目施設指導室長、加賀谷子ども健康課長、伊藤子ども未来センター所長、ほか関係職員

4 傍聴者 0人

5 会議の内容

- 開会
- 会長選出
- 副会長指名
- 議事

- (1) 「第3次子ども・子育て未来プラン」の進捗状況について
- (2) 就学前児童の居場所と施設数の推移について
- (3) 教育・保育の量の見込みと待機児童に基づく確保方策について
- (4) 認可確認部会委員の選任について

- その他
- 閉会

6 議事要旨

- 奥山順子会長

それでは、議事の(1)「第3次秋田市子ども・子育て未来プラン」の進捗状況についてを、事務局より説明をお願いします。

< 事務局説明 >

○ 奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

○ 水澤聡委員

待機児童の数について、4月は「0」となっているが、3月になると何人か出てきている。原因は何か。

様式1-1のP1「休日保育実施施設数」について、令和3年度に新たに2施設追加となるということは、目標値の12施設を上回る13施設になると捉えてよいのか。

また、P6「元気な子どものまちづくり認定企業数」について、令和6年度の累計を目標値に設定しているが、現状値は令和2年度の数値となっている。途中経過になるため、当然、目標を達成していないことになる。評価方法が厳しいのではないか。

● 事務局

待機児童数について、年度途中で子どもが生まれ、育休を取得した場合などは、どうしても待機児童が発生してしまう。

休日保育の実施施設数については、お見込みのとおりで13施設になる。

また、元気な子どものまちづくり認定企業数について、最初に高い目標を掲げており、年度ごとの目標ではないため、C評価が続くものと考えている。できるだけ早く目標値に近付けるよう、企業に対して声掛けなどを実施していきたい。

○ 澤口勇人委員

様式1-2のP17「児童虐待防止推進事業」について、令和2年度実績数が昨年度比で倍以上になっている。秋田市の虐待対応を含め、実態に基づいた、より詳しい説明をお願いしたい。

● 事務局

件数倍増の要因の一つとしては、令和3年1月より、県の中央児童相談所が対応していた面前DV事案の受入を開始したことが考えられる。これ以外にも要因があるかと思うが、詳細はまだ把握しきれていない。今後も、秋田市要保護児童対策地域協議会を活用のうえ、引き続き、保護が必要な児童の早期発見に努めていきたい。

○ 奥山順子会長

その他の要因の分析は、これから行っていくのか。

● 事務局

受理したものの全てをもって、秋田市の実態と判断するのも難しい。そういった

ことを含めて、引き続き分析していきたい。

○ 奥山順子会長

秋田市の虐待件数は、子ども未来センターが全体を把握しているのか。

● 事務局

秋田市と中央児童相談所で把握している。秋田市では、中央児童相談所が受理した数は把握しているが、今回の資料に数として含まれていない。

○ 澤口勇人会長

虐待件数は右肩上がりが増えており、全国各地で痛ましい事案が発生している。秋田市においても、いつ起こるか分からない状況となっており、虐待については最重要課題の一つと認識している。

行政には、分析を進めたうえで、全体的な数を掌握して、開示してほしい。様々な事情があることは承知しているが、もっと真剣に向き合い、対応する必要があると考えている。

P 1 8 「私立保育所等障がい時保育事業」について、どのように指標化、あるいは、カウントしているのか。より詳しい説明をお願いしたい。

● 事務局

現在、91人いる対象児童を受け入れてる施設が、43施設ある状況となっている。

○ 澤口勇人委員

障がいのある児童はたくさんいるが、保護者が医療機関等で手帳や診断書を発行しないと、対象にカウントされない。また、障がいの疑いがある児童も、カウントされず、結果として補助の対象となっていない。ただ、現場では、こういった児童を保育し、さらに他の児童も守る必要があるため、担当職員を増やして対応している。担当職員を増やしても、その分の補助金が支給されていないのが現状。その結果、現場が疲弊してしまい、健全な保育が成り立っていない。

確かに受入施設数は増えているが、資料に表れていない部分もあることを分かってほしい。秋田市として、具体的な施策をもって対応し、支援を充実させてほしい。

● 事務局

令和2年度には、補助単価を上げるなどして、現場の苦労が報われるように対応しているところ。東北の主要都市の状況をみても、秋田市が特別低いわけではないが、対象児童は増加していると認識している。今後も、他都市の状況等をみながら、対応を検討していきたい。

○ 渡辺丈夫委員

行政に理解してほしいのは、保護者あるいは保育現場が、障がい認定の手續に非常に苦勞しているということ。多くの園では、配慮が必要な児童に対しては職員を配置したうえで、保護者と良い関係性を築きながら対応している。

○ 奥山順子会長

重要なのは、保護者が障がいを持つ子どもをどのように理解するのか。また、園だけではなく、他の関係機関と連携しながら、保護者に対するサポートを行う必要があると感じている。

○ 山崎純委員

様式1-1のP2「地域子育て支援拠点施設の延べ利用人数」について、イベントの参加人数の制限により利用者が減少したとのことだが、多くの施設が休館し、実際の開館日数も少ない。開館日数が減少したことも、資料に記載したほうがよいのではないか。

また、令和2年度の実績を令和元年度と比べると、大きく減少している。新型コロナウイルス感染症の影響だけではなく、就労家庭の増加に伴い在宅子育て家庭が減少したことも背景にあるのでは。この状況は今後も続くことが予想され、このような中で、令和6年度目標値の10万人は現実的ではないと思う。今後の対応として、イベントの周知と記載されているが、それ以外の対策を考える必要があるのでは。例えば、より参加者の満足度を上げられるようなイベントを実施し、満足度により評価するのはどうか。

「子育てサポートクーポン券交付率」について、交付率の向上のために、より対象者が利用しやすい内容のプランを考えていくべきではないか。

● 事務局

新型コロナウイルス感染症の感染状況が日々変化しており、今後の利用者数を見込むことが難しいが、感染状況や在宅子育て世帯の動向をみながら、必要に応じて、目標値の見直しもしなければならないと考えている。

また、満足度により評価を行うことについて、どういったかたちで評価するのかを含めて、今後考えていきたい。

子育てサポートクーポン券について、毎年利用者に対するアンケートを実施し、意見を頂いている。その結果などを踏まえ、利用しやすい新しいプランなどを考えている。

○ 奥山順子会長

様式1-1のP4「子どもの生きる力の育成に向けた教育環境等の整備」について、達成率の高さに驚いた。全国でも類似の調査が実施されており、例えば、「将来の夢や目標は持っているか。」を問う他の調査では、小学生が約70%、

中学生が約60%となっており、それに比べると秋田市の値はとても高い。

とても希望が持てる数値であるので、この数値の背景を丁寧に分析してほしい。

次に議事の(2)就学前児童の居場所と施設数の推移についてを、事務局より説明をお願いします。

< 事務局説明 >

○ 奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

【質問・意見なし】

○ 奥山順子会長

次に議事の(3)教育・保育の量の見込みと待機児童数に基づく確保方策についてを、事務局より説明をお願いします。

< 事務局説明 >

○ 奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

○ 渡辺丈夫委員

1号について、令和2年度の計画では1,924人で、実績では2,633人となっており、2号について、令和2年度の計画では幼稚園希望が832人となっているが、実績には記載されていない。この数値はどこに振り分けられているのか。

また、令和2年度の実績値について、2号が不足398人とあるが、どういったかたちで受け入れているのか。定員を20%増やすなどして、対応しているのか。

● 事務局

計画値の832人に相当する方については、実績値における1号の新2号や2号に含まれていると思われる。ただ、幼稚園を希望する方が、実際にどのくらいいるのか、また、どのように1号や2号に移ったのか現時点で集計するのが難しい。

また、令和2年度実績の不足分解消については、定員を増やすなどして対応している。

○ 澤口勇人委員

資料2「令和3年度 就学前児童の年齢別居場所」に記載のとおり、0歳児の数が1,704人となっており、秋田市は1年間に1,700人しか産まれないまちとなっている。秋田市ではもともと少子化は問題となっていたが、新型コロナウイルス

の影響で全国的に出生控えが進んでおり、秋田市においても出生数が大きく落ち込むことが予想される。少子化が進むことで、公立保育所や小規模保育施設の定員割れに拍車がかかり、施設の運営が難しくなっている。

これを踏まえると、子ども・子育て会議のテーマはこれまでの「待機児童対策」ではなく、「少子社会の中で施設をどのように維持していくか」になると考えている。

自分で選んだところに入りやすくなる点は良いことだが、施設を運営する立場としては非常に厳しい状況。秋田市と協議し、意見を伺いながら、今後の対応を考えていきたい。

○ 奥山順子会長

次に議事の(4)認可確認部会委員の選任についてを、事務局より説明をお願いする。

< 事務局説明 >

○ 奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

【意見なし】

○ 奥山順子会長

議事は以上となるが、せっかくの機会であるため、発言していない委員に意見を伺いたい。コロナ禍におけるひとり親世帯の実態について、秋田市母子寡婦福祉連合会の中川委員に意見を伺いたい。

○ 中川聖子委員

あるシングルマザーからは、新型コロナウイルス感染症の影響で仕事が減少し、収入が落ち込んだため、転職を考えていたが、子どもが障がいを持っていることもあり、求職活動がなかなか進んでいないという声を聞いている。

他にも大変な家庭はたくさんいるが、先日、秋田市社会福祉協議会から、食料や生活用品などの物資が寄付され、会員や施設の母子家庭に配った。支援に対して深く感謝するとともに、当会としても、今後も支援を継続していきたい。

○ 奥山順子会長

ほかに意見などはないか。ないようなので、これをもって終了する。